学校だより

高岡市立牧野小学校
令和５年度Ｎｏ．９

牧の野に

令和６年の元日に起こった能登半島地震により被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。自然の前には、人の力はどうしようもなく弱いものだと痛感させられます。しかしながら、弱いからこそ助け合い、力を合わせることの大切さが分かるのかもしれません。３学期も教職員一同、一人一人の子供を見つめ、力を合わせて取り組んでまいります。今年も、どうぞよろしくお願いいたします。

想像をふくらませる

教務主任　橘　晶子

2024年の干支である辰は十二支の中で、唯一架空の生き物です。誰もその本物の辰（竜・龍）の姿を見たことがありません。しかし、現代の私たちが辰の姿を連想すると、その姿はほぼ一様です。では、どのようにして、辰のイメージが出来上がったのでしょうか。

有力とされているのが、中国の後漢、宋の時代の「三停九似説（さんていきゅうじせつ)」なのだそうです。「三停」とは頭頂から腕の付け根、腕の付け根から腰、腰からしっぽを等しい長さとして描くこと、「九似」とは龍の姿が他の九つの生き物に似ているということを表すのだそうです。

龍のもとになった九つの生き物は以下の通りです。
角…鹿、頭…駱駝（らくだ)、眼…鬼（うさぎという説も)、胴体…蛇、
腹…蜃（みずち…蜃気楼を生み出すという架空の生き物)、
背中の鱗…鯉、爪…鷹、手…虎、耳…牛
さらに、口の横に長い髭を生やし、鱗は81枚あり、喉の下の１枚だけが逆さに生えていて、手には宝珠を持っているとされています。

誰も本物を知らないだけに、昔の人は目の前にある情報からたくさん想像をふくらませたことでしょう。そして、近くの人と議論を交わしながら大人も子供も「ああではないか」「こうではないか」と龍の姿を描いていったのでしょう。そう考えると、想像をふくらませることが、なんだかとてもわくわくすることに思えてきます。正解は一つではないので、いろいろな龍の姿がイメージされたことでしょう。そして、そのどれもが人々の想像力の賜物だったことでしょう。

校舎３階からの御来光

Society5.0の時代と呼ばれ、テクノロジーによって様々な問題が解決されていき、人々がより暮らしやすい社会になると言われています。そんな社会で、人間はより創造的な作業に専念できることを目指していきます。

昔の人が九つの生き物をもとに龍の姿を思い描いたように、この世にまだない新しいものを生み出したり、その過程で自分の考えを周りの人に分かりやすく伝えたりする力を、これからの牧野っ子にもどんどん付けていってほしいと願っています。

龍のように大きく飛躍できる一年になりますことをお祈り申し上げます。

まっすぐに　きれいに　のびる　牧野っ子

作品展覧会→
(12/19・20)

絵画や立体物の作品を体育館に集めて展覧会を行いました。保護者の方々にもご覧いただきました。

２学期終業式
(12/21)→

臨時休業となり、１日早く終業式を行いました。２学期にがんばったことや成長を振り返りました。

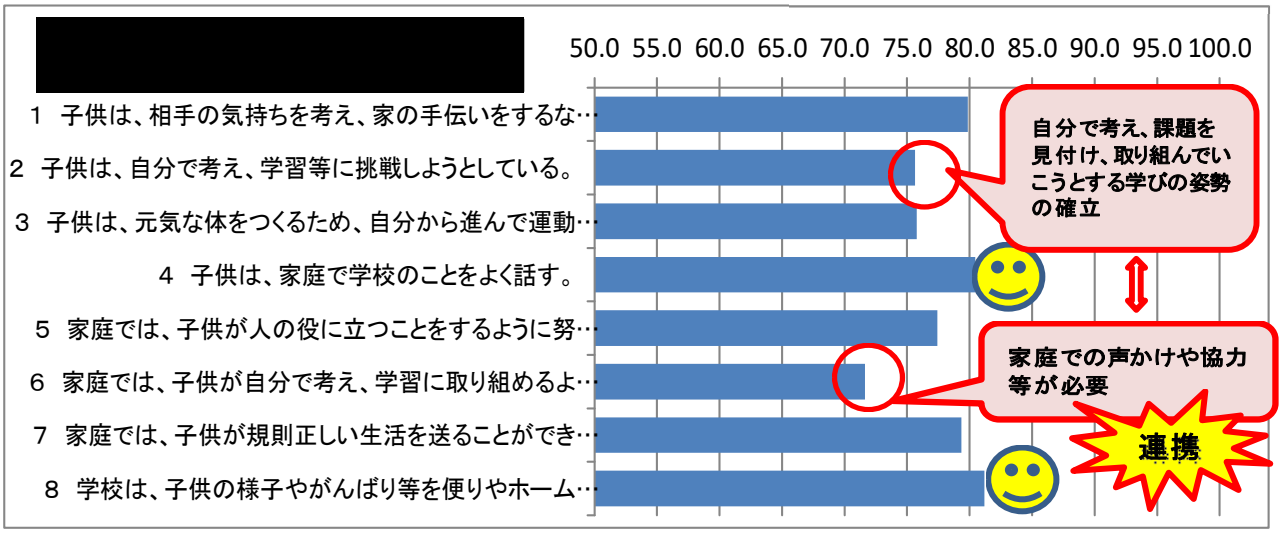
校内書初大会 (1/9)

←３～６年生は体育館で、１・２年生は教室で行いました。静かな中で集中して、オンリーワンの作品を仕上げました。

←第44回越中万葉カルタ大会(1/15)

万葉カルタをやってみたいという希望者が集まって出場しました。練習の成果を発揮し団体３位と健闘しました。

学校評価の集計結果(2学期末実施)～ご協力ありがとうございました～



考　察　全体的に１学期よりも評価の高い項目が多い。特に、項目４の「学校のことをよく話す」や、項目８の「子供の様子やがんばりを便りやホームページで･･･」が高い。項目２と６の「子供が自分で考え学習に取り組む･･･」については学びの姿勢の確立が必要で、そのためには保護者と学校の連携が大切だと考えられる。

交通安全のお守りをいただきました！

いつも牧野っ子の安全を見守っていただいているＴさんから、今年も交通安全祈念のお守りとメッセージをいただきました。干支の辰の絵が施されている手づくりのお守りです。メッセージには、「横断歩道　手を上げてわたる　とまってくれた運転手さんに笑顔で　ありがとうの気持ちをもってあいさつする牧野っ子」と書かれていて、Ｔさんの気持ちが伝わってきます。職員室前に飾ってあります。地域の皆様に、温かく支えられていていることに感謝です。

≪自由記述より≫

毎日、夕飯のときやおふろで学校や学童での話しを聞くようにしています。トラブルがあったときはアドバイスをしますが、本人が悪かったことを言うと、「この話やめる！」と怒り出します。また、失敗や間違いをとても怖がっていて親として心配です。どのように接したり声をかけたりしたらよいですか。

子供の反応に戸惑うことは、子育ての中で多々あると思います。これが絶対に正解というものはありませんが、「この話やめる！」と怒り出すのは自分が悪いと分かっているので、そのままそっとしておけばよいのではないでしょうか。また、ことあるごとに「失敗しても大丈夫」「間違っても大丈夫」と伝えていく。そして小さな成長を親として喜んでいくことを大切にしてくださいね。